小児インフルエンザワクチンの接種について（説明書）

★インフルエンザとは

インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。インフルエンザにかかった人が咳やくしゃみなどをすることにより、ウイルスが空気中に広がり、それを吸い込むことによって感染します。典型的なインフルエンザの症状は、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、咳、鼻水などもみられます。普通のかぜに比べて全身症状が強いのが特徴です。気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多いのも特徴です。

★インフルエンザ予防接種の有効性と接種時期

インフルエンザ予防接種は発病防止や特に重症化防止に有効であることが確認されています。接種後、インフルエンザに対する抵抗力がつくまでに 2 週間程度かかり、その効果が十分に持続される期間は約 5 か月間とされています。

より効率的に有効性を高めるには、毎年インフルエンザが流行する前に接種を受けておくことが必要です。

★インフルエンザ予防接種の副反応

予防接種の注射の跡が、赤みを帯びたり、はれたり、痛んだりすることがありますが、通常 2～3 日のうちに治ります。また、僅かながら熱が出たり、寒気がしたり、頭痛や、全身のだるさなどがみられることがありますが、通常 2～3 日のうちに治ります。また、接種後数日から 2 週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害の現れる等の報告があります。非常にまれですが、ショック、アナフィラキシー様症状が見られることもあります。

※アナフィラキシー様症状とは、通常接種後約 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐(おうと)、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

★予防接種を受けることができない人

次のいずれかに該当すると認められる場合には、予防接種を受けることができません。

1　明らかな発熱がある人　（一般的に、体温が 37.5℃以上の場合）
2　重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
3　過去に予防接種に含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな人
4　以前に、インフルエンザの予防接種を受けた後、2 日以内に発熱が見られた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を起こしたことがある人
5　上記に掲げる人のほか、予防接種を行うことが不適当な状態であると医師に判断された人

★予防接種を受ける前に医師と相談しなければならない人

1　心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの人
2　発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている人
3　かぜなどのひきはじめと思われる人
4　予防接種を受けたときに、2 日以内に発熱のみられた人及び発しん、じんましんなどのアレルギーを疑う異常が見られた人
5　インフルエンザの成分または鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のものに対して、アレルギーを起こすおそれのある人
6　今までにけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある人
7　過去に免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
8　妊娠の可能性がある人
9　間質性肺炎、気管支喘息などの呼吸系疾患のある人

★ワクチン接種後の注意

1　インフルエンザワクチンを受けた後３０分間は、急な副反応が起きることがあります。医療機関（施設）でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。
2　接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
3　当日は、激しい運動を避けましょう。
4　接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

★健康被害が発生した場合

任意の予防接種により健康被害が生じた場合は、長井市予防接種事故災害補償規程に基づく補償と、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法による医薬品副作用被害救済制度に基づく被害救済の対象となる可能性があります。